

FANDDF法人向けAI活用講座 説明資料

問い合わせ先: 070-7544-3777

Mail: info@fanddf.jp

※ 無断転載は固くお断りします。

FANDDFが育てるのは 「AIを使える人」ではありません



ツール操作の習得ではない

特定のAIツールの使い方、機能名、固定プロンプトの暗記。これらはツールや環境が変われば使えなくなります。

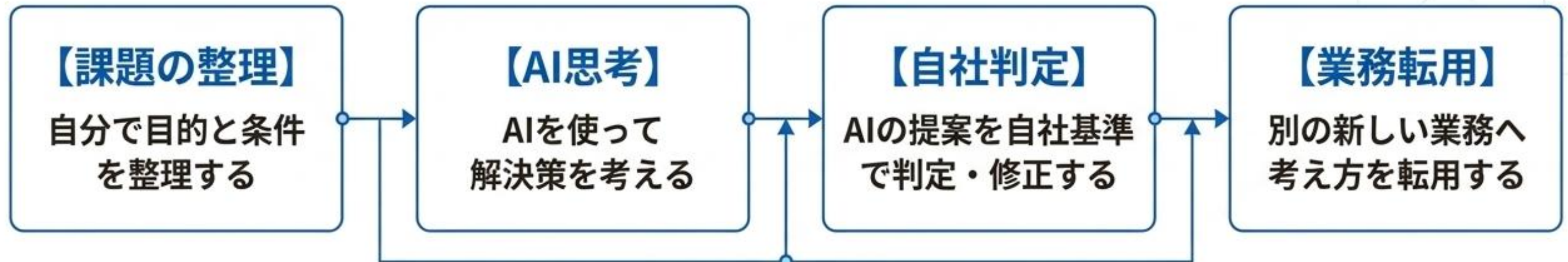


「AIを使って考える人」を育てる

新しい業務課題に直面した際、自ら課題を整理し、AIを思考のパートナーとして扱い、自社基準で判断を下せる状態を目指します。

主役はAIツールやシステムではなく、常に「人」です。

FANDDFが考える「自走力」とは



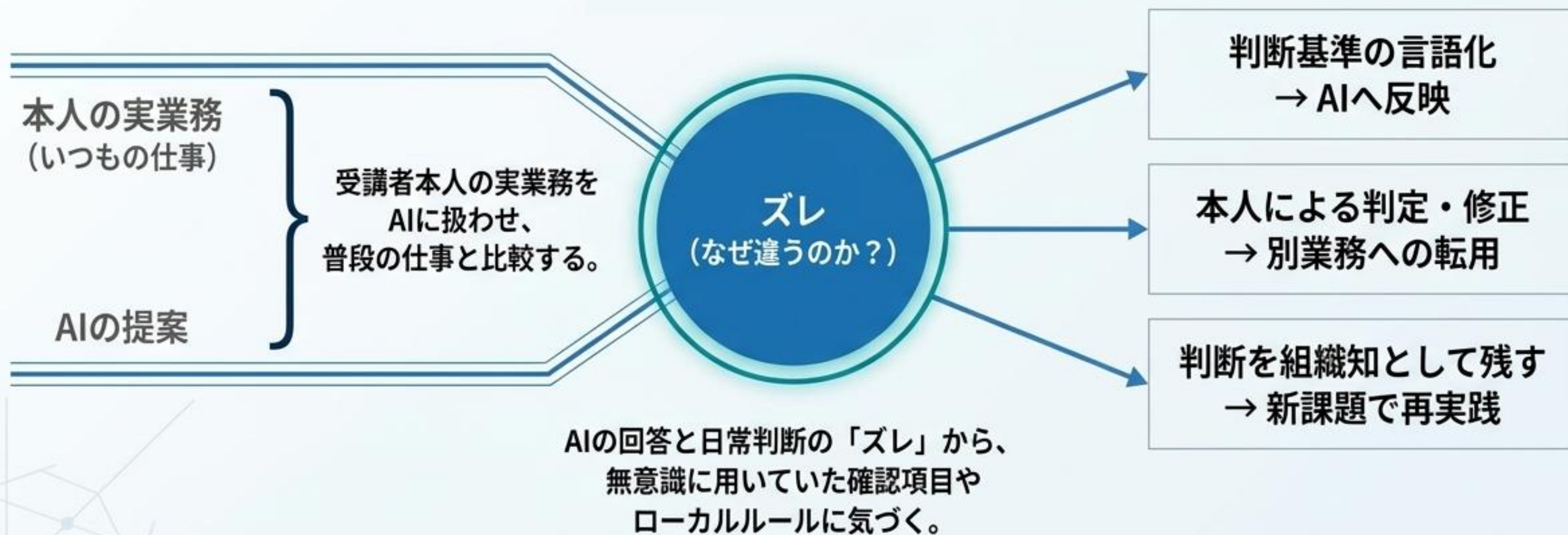
3つの領域を見分ける力

すべてをAIに任せることはありません。

- AIで支援できる領域
 - 自社（人）で判断すべき領域
 - 専門家へ相談すべき領域
- これらを見極め、次の行動を自分で決められる状態が「自走力」です。

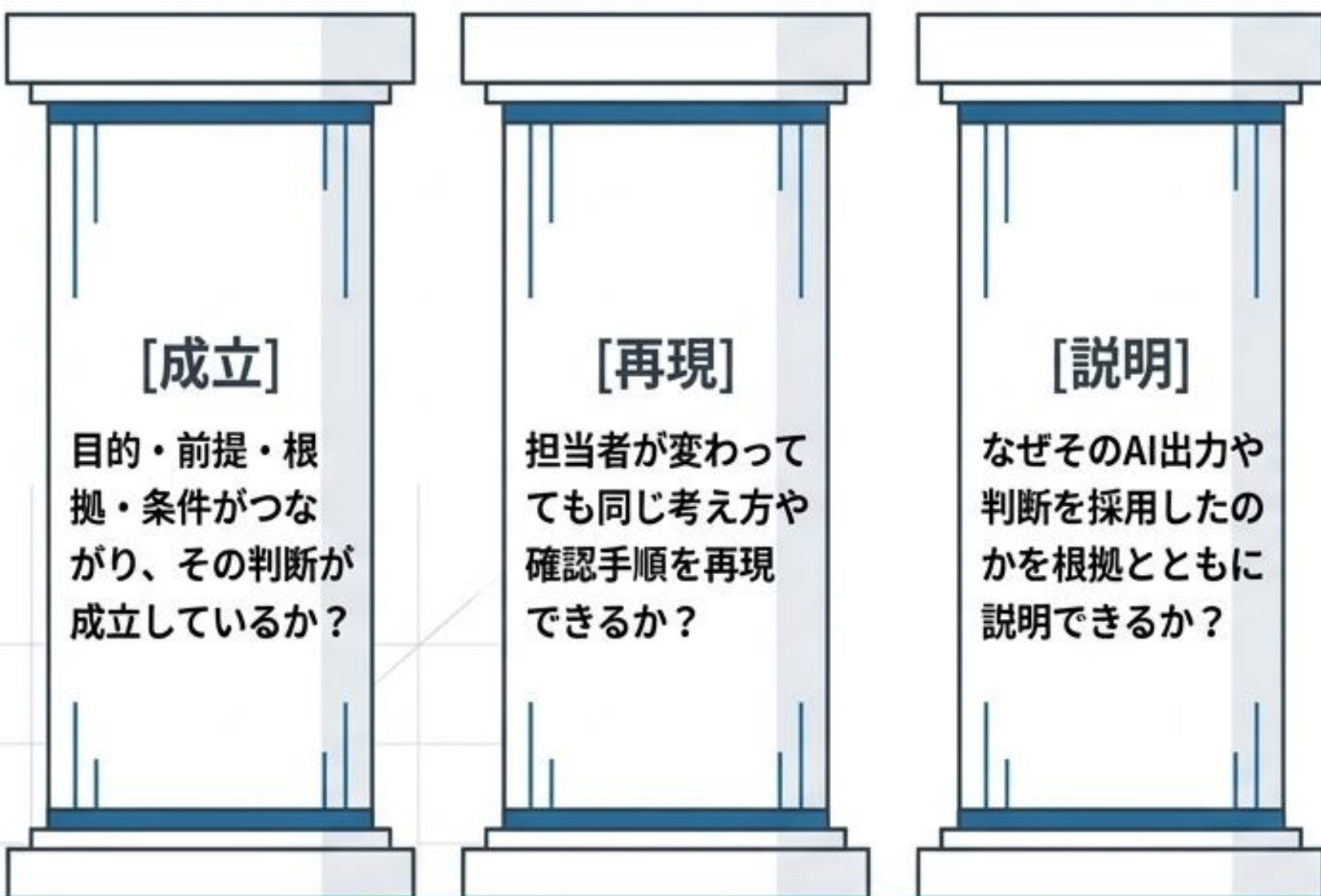
自走力は、実際の仕事の中で育てる

判断発見プロセス



実業務は単なる練習問題ではありません。実務とAI出力の「ズレ」を利用して、本人すら気づいていなかった「判断の自己発見」を促すための教材です。

なぜ「自社の判断基準」を明らかにするのか



AIへ最終判断を 任せないための枠組み

AIは自社のルールや責任分界を知りません。AIの提案が一般的に正しくても、そのまま業務へ使えるとは限りません。

抽出した自社基準と「成立・再現・説明」の観点を用いて、人がAI出力を判定し、誤対応や確認漏れ（AI事故）のリスクを抑えます。

だから、FANDDFはこう教える

「AIに聞けばわかること」は教えない

表面的な操作手順や固定プロンプトの暗記ではなく、「なぜその条件を加えるのか」という本質理解を重視します。

受講者に合わせた動的な講義変更

決まったカリキュラムの消化ではなく、理解度、反応、その場で出た実務課題に応じて説明方法や講義内容そのものを変更します。

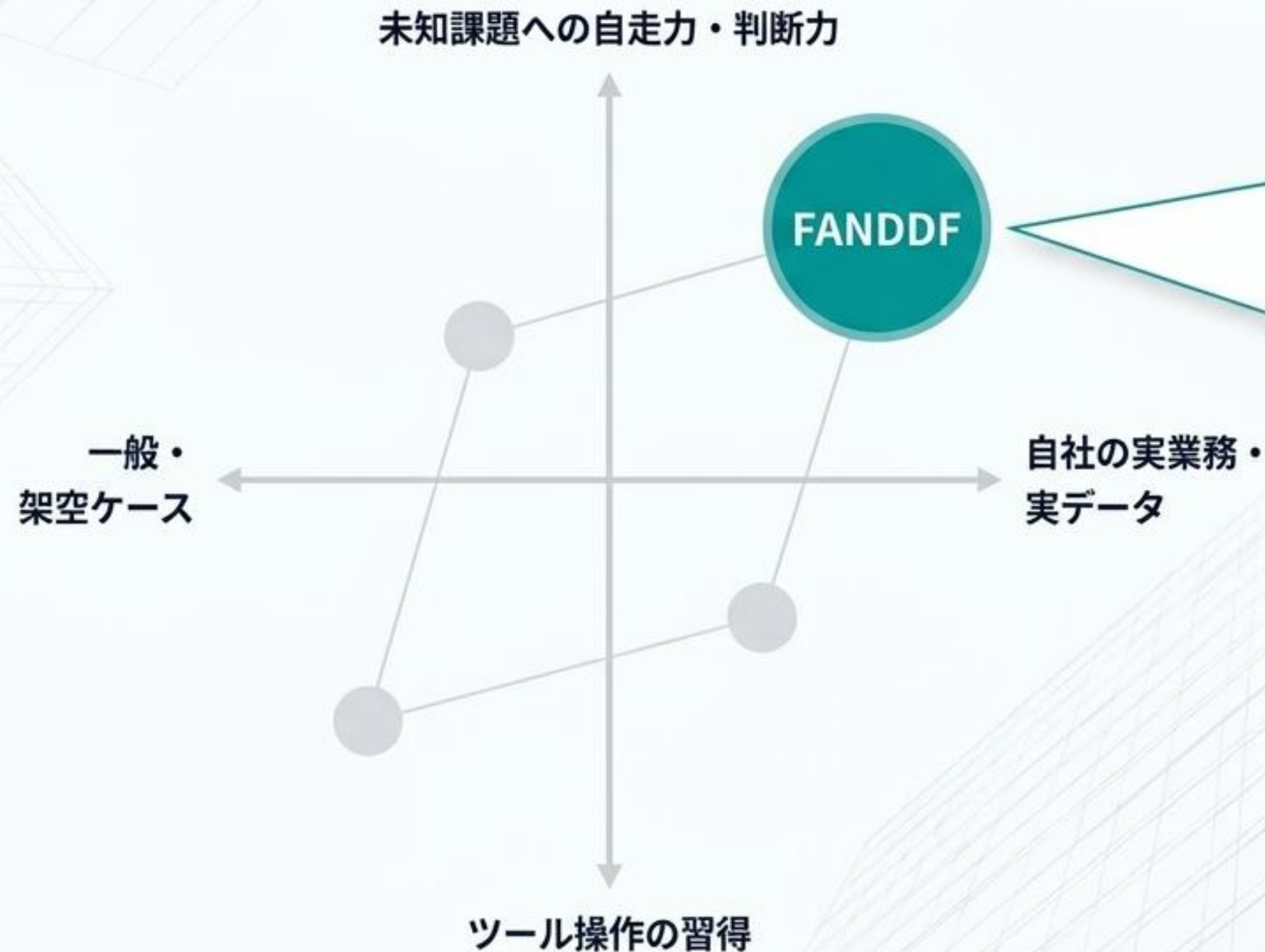
御社の業務フローをいじりません

今の仕事には、御社独自の判断基準が詰まっています。安易な改変は、違和感を生み、定着率に影響します。まずは御社基準を取り出し、AIに反映させることに傾注します。

常に「実業務」を扱う

一般的な架空ケースではなく、受講者本人が現在困っている仕事や実際の情報を題材にします。

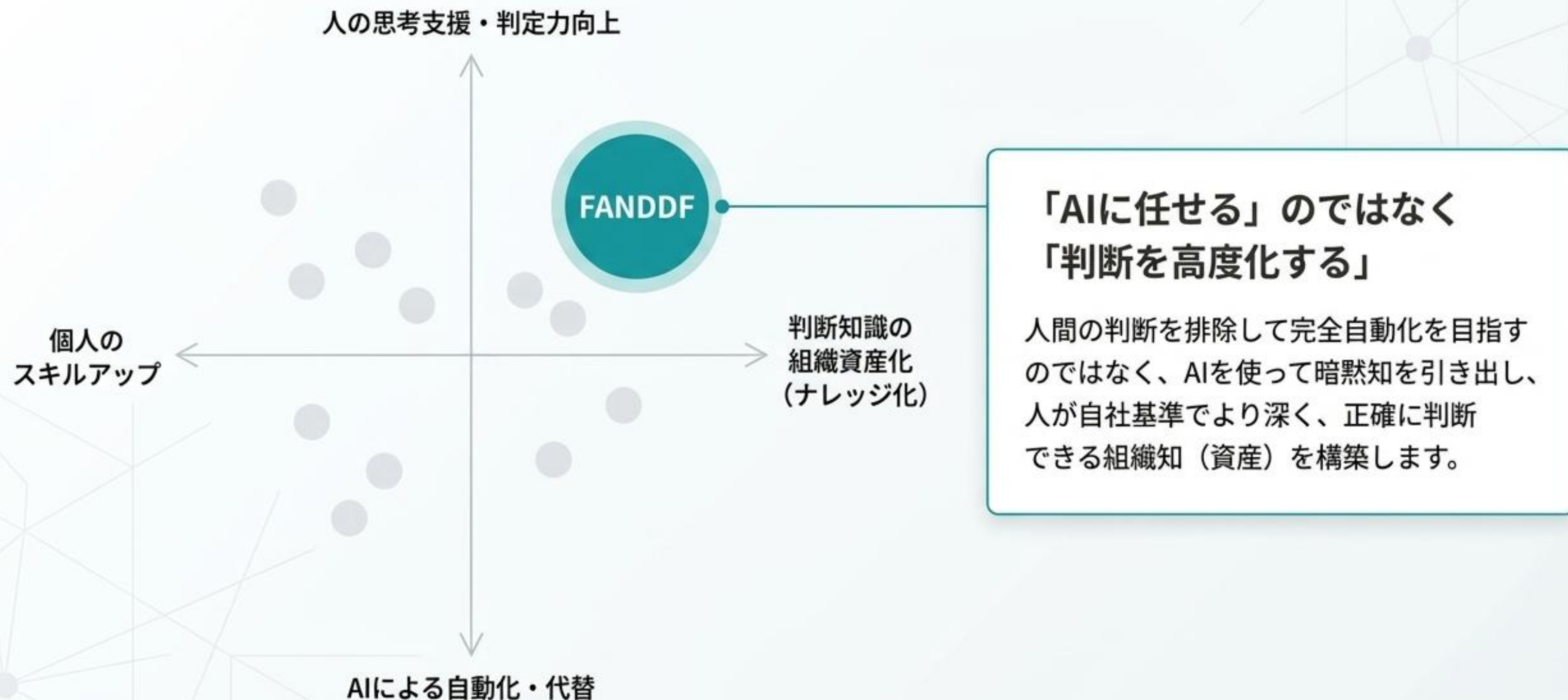
競合調査から見るFANDDFの位置① — AI教育の到達点



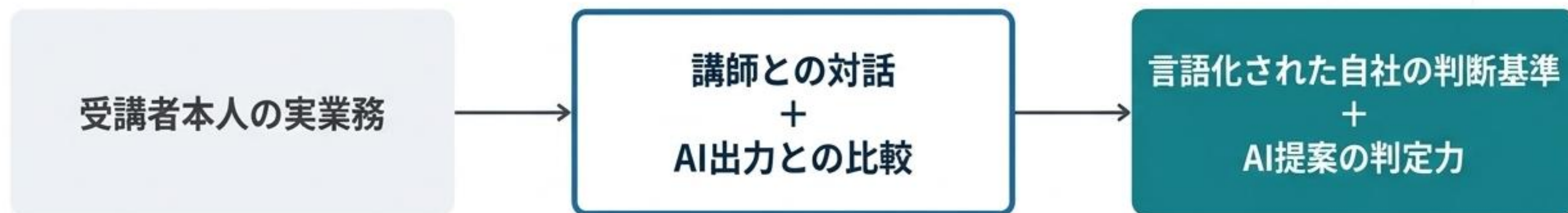
FANDDFの独自性は「育て方」にあります

「自走」や「実務を使う研修」は、他社にもあります。
FANDDFでは、まず受講者本人の理解度やスキルに合わせつつ、実際の受講者の仕事をAIにやらせ、普段の仕事と比べます。そこで出てきた違いから、「自社では、なぜこう判断しているのか」を本人に気づいてもらうことで受講者の自走力を養います。

競合調査から見るFANDDFの位置② — AI出力との向き合い方



① オリジナルライブ講習



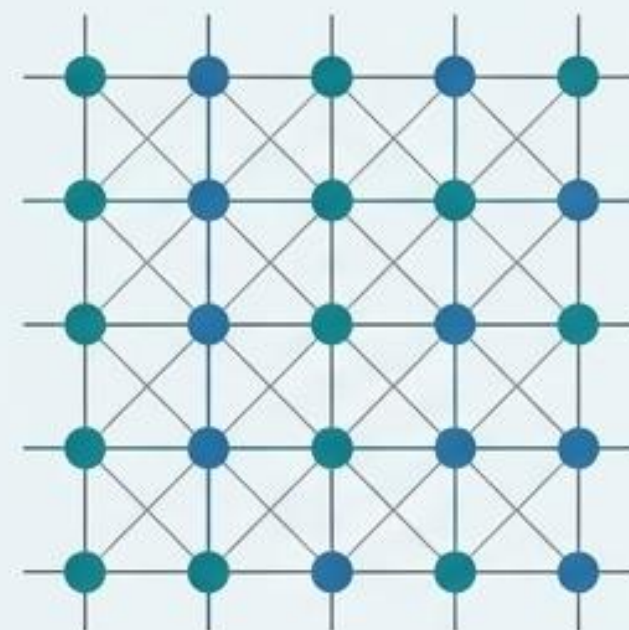
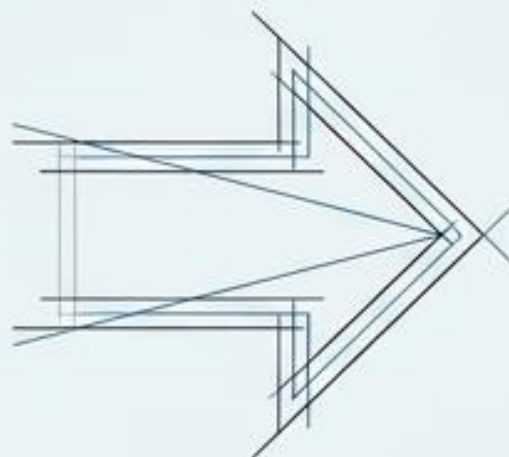
自走力を育てる中心サービスです。受講者本人が実際の業務を題材にAIを操作し、出てきた回答と普段の自分の仕事を比較します。

「なぜ違うのか」を考えることで、無意識の判断基準を発見し、AIの提案を自社基準で判定し、別業務へ応用する力を身につけます。一般的な操作研修や定型プロンプト講座ではありません。

② 自社専用AIナレッジ基盤構築支援



個人の頭の中にあった判断・ルール



自社専用AIナレッジ基盤
(Gemini Notebook等)

研修録画ではなく、再利用可能な「判断知識」へ

ライブ講習で明らかになった自社の意思決定基準、評価基準、ローカルルールを再構成し、自社専用の相談AI（Gemini Notebook等）として実装します。

これはAIに判断を丸投げする完全自動化基盤ではありません。社員が別の業務で迷った際に、自
自社ルールに沿った具体的な指針へアクセスし、自ら考えるための「思考支援基盤」です。

学ぶ → 残す → 更新する。3つのサービスを循環させる

【更新する】

③ オリジナルライブ追加講習プラン

新しい課題や環境変化に合わせて、AI活用と判断知識を更新・拡張し、再び組織知へ還元する。

【学ぶ】

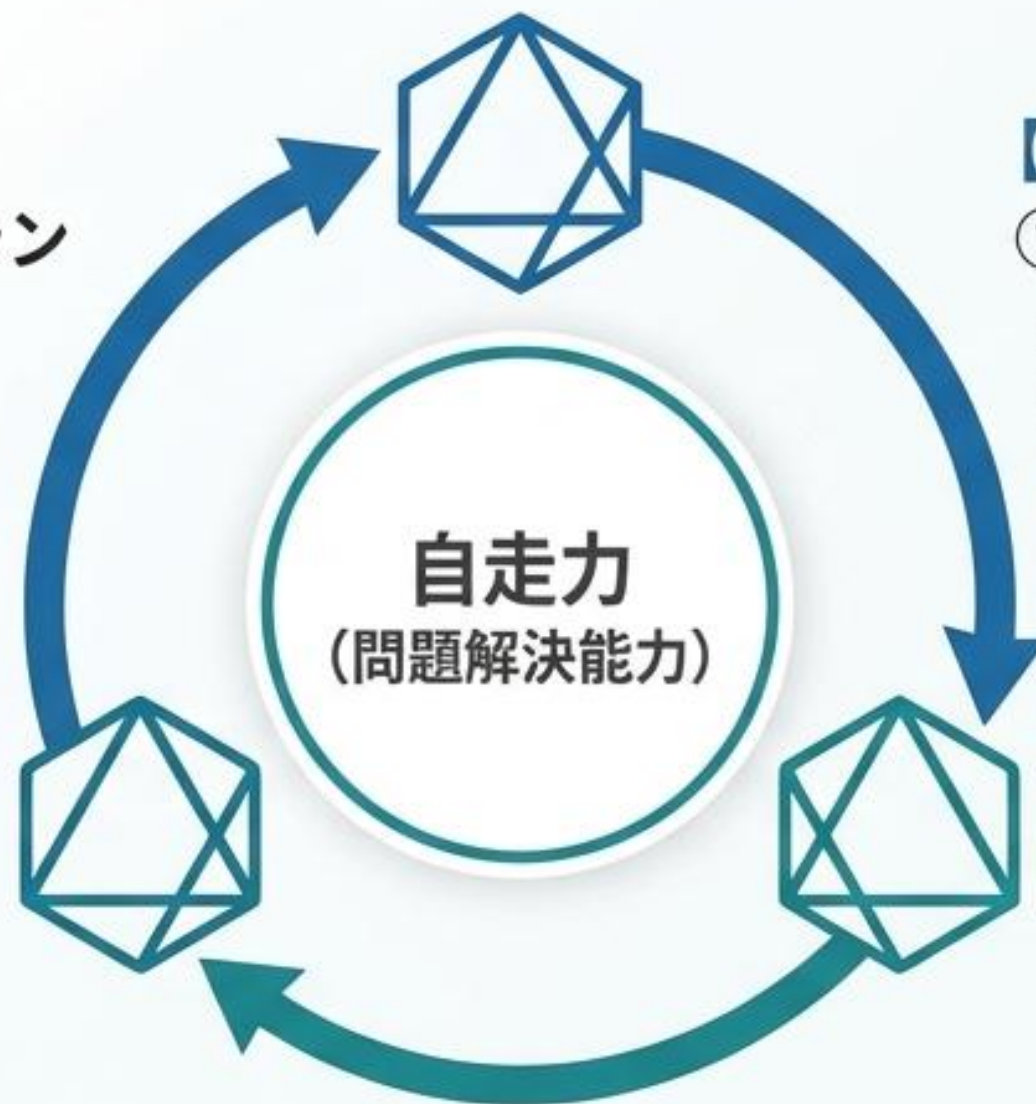
① オリジナルライブ講習

実務でAIを使い、自社基準による判定力と自走力を育てる。

【残す】

② 自社専用AIナレッジ基盤構築支援

発見した判断を、別業務でも使える組織知（企業資産）として残す。



独立した3つの商品ではなく、人の自走力と企業の判断知識を同時に更新し続けるための循環システムです。

目指すのは、FANDDDFがいなくてもAIを使える会社

AIに任せる会社ではなく、
AIを使って考え、判断し、解決できる会社へ。

判断力を、企業の資産に。
